

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013年	インターン番号	KB019	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ
受入機関	Indonesian Chamber of Commerce and Industry (KADIN)				
受入機関概要 (事業内容等)	インドネシア商工会議所 インドネシア最大の経済団体 インドネシアの産業界を牽引し、政府への意見機関				
派遣期間	2013年9月18日～2014年2月28日				
現在の所属先	大森電機工業株式会社		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	営業部		所在地	神奈川県	
区分	中小企業		性別	男	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

中小企業の後継者という立場から、今後経営者として海外展開及び海外企業との提携を視野に、現地で体験から今後の事業展開を円滑にしたいと考えたからです。日本とは異なる、多宗教、多民族の文化に触れ、ビジネスや生活における違いを肌で感じる必要性を強く意識し、インドネシアへのインターンシップを希望しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

商工会議所という立場の為、APECをはじめとした国際・国内の経済会議、イベントを多く主催しており、会議・イベントの補助、及びKADIN所属企業との意見交換、政府関係者との意見交換が主な業務でした。また、インドネシアは多くの島々から形成されている為、各島々の支社へ行き、各々が実施している政策などについても意見交換を行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インターン期間中は、仕事の面だけでなく、日々の生活からも自分自身で考え行動することが必要とされ、普段の意識の持ち方次第で成果が大きく変わっていくことを実感しました。また、言葉の壁は、英語が出来ればということだけでなく、現地の言葉でコミュニケーションをとる必要性を強く感じ、結果として生活面での会話には苦慮することが無くなったことも新しい発見でした。

日本国内では、一企業の人間として見られるが、海外では日本企業からの人間として見られる為、日本の強さ、弱さを再認識することができ、帰国後の活動においても良いきっかけとなりました。

インターンシップ風景



KADIN主催イベントの業務にて



工業地域見学

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

帰国後は、JETROの「専門家による新興国進出個別支援サービス」を活用し、さらに1年間、ジャカルタを中心に市場調査、現地日系企業とのコネクション形成を行いました。その結果、日系の大手企業様3社と新たにお取引(製品の設計・開発・製造)を開始し、国内向け、海外向けの製品を共同で開発しております。

また、1年半(インターン+支援サービス)の活動を通じて出会った多くの企業様(国内、海外問わず)と交流を続けており、インドネシア以外での新たな取り組みとして、ベトナムでの人材教育、及びインバウンドビジネスに向けた事業展開を図っております。

今後は、現在の活動に加え、インドネシアとベトナムの大学とのコネクションを生かし、少子化に対応すべく人材の受入れ、活用を行っていきたいと思っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

日本の企業に所属しながらのインターンシップ参加という機会は非常に貴重です。さらにこのインターンシップでは現地の日系企業でなく、現地企業で働くことが出来る為、心身共に鍛えられます。

日本で働くだけでは経験が出来ない事が多々あり、経験談やこのような文面では中々伝えきれないほど充実した経験が出来ます。社会人としてだけでなく、一個人として成長できる機会ですので、是非活用してみてください。